

# 令和6年度 北の国・森林づくり技術交流発表会プログラム

会場：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）  
発表会の模様は、YouTubeでLIVE配信します。

令和7年2月18日（火）

YouTubeLive:<https://youtube.com/live/CFmVwzdWU6Y?feature=share>



◎ 受	付	9:00～
◎ 開	会 式	9:30～ 9:45
◎ 森 林 技 術 部 門	口 頭 発 表	9:50～12:05
◎ ポスター発表	コアタイム（一般）	13:00～14:00
◎ 特	別 発 表	14:00～15:15

令和7年2月19日（水）

YouTubeLive:<https://youtube.com/live/MaRkyCk1pqq?feature=share>



◎ 受	付	9:00～
◎ 森林保全・ふれあい・地域連携部門	口 頭 発 表	9:30～11:10
◎ 高 等 学 校 部 門	口 頭 発 表	11:20～12:05
◎ ポスター発表	コアタイム（高校）	13:00～13:45
◎ 特	別 講 演	13:45～14:45
◎ 講 評	・ 表 彰 式	14:50～15:10
◎ 閉	会 式	15:10～15:15

※ 北海道森林管理局が発表会で撮影する発表者や来場者等の写真等の映像は、YouTubeで配信され、北海道森林管理局ホームページや技術交流発表集に使用致しますので、予めご承知おきください。

令和6年度 北の国・森林づくり技術交流発表会(1日目)

令和7年2月18日(火)

森林技術部門 8課題 9:50~12:05  
特別発表 4課題 14:00~15:15

場所:講堂(2階)

【森林技術部門】

9:50~ ① 止別海岸防災林の造成と管理整備

網走南部森林管理署 栗原 詩、金森 千沙

止別海岸防災林の造成の目的と、その造成や管理に当たっての留意点を発表することで、理解を深め、今後の海岸防災林の造成や管理に役立てる。

10:05~ ② 造林作業の軽労化に向けて  
~クリーンラーチコンテナ苗で下刈省略~

十勝西部森林管理署東大雪支署 森川 周、鈴木 啓之

増加する主伐箇所の再造林において課題となっている下刈作業の省力化について、当支署が実施したクリーンラーチコンテナ苗の植栽による下刈作業の省略化事例を報告する。

10:20~ ③ カラマツ将来木施業実証林の成長経過について

オホーツク総合振興局東部森林室普及課 井上 昴、坂本 雄

将来有望と判断される単木に着目した将来木施業の実証に向けて、美幌町有林に将来木施業区・通常間伐(定性)区・無施業対照区を平成30年に設定した。設定5年後(カラマツ29年生)の成長経過等を報告する。

10:35~ ④ LiDAR搭載UAVによる安全な事業計画策定及び実行について

大澤木材株式会社 野上 一平

根釧西部森林管理署 見付 亜那、三田 武

林内での事業実行前の人力踏査には時間がかかり、ヒグマによる労働災害の発生もあったことから、これに代わる手法として、LiDAR搭載UAVとGISを活用した安全で効率的な事前調査について検証した。

休憩 10:50~11:05

11:05~ ⑤ 天然更新地の保育試験(54年目の成績)

胆振東部森林管理署 腰越 玲翔、佐藤 周平

針葉樹の天然更新が旺盛な箇所では成長量の増大・健全な林分へ誘導するための除伐試験を昭和45年に行った。52年が経過し、主伐期を迎えた試験地の林況について報告し、天然更新地の施業方法について考察する。

11:20~ ⑥ マルチスペクトルカメラ搭載型UAVを用いた北方針葉樹の樹種判別への試み

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林  
大島 章生、福士 憲司、犬飼 浩、高津 勇佑、岸本 光樹

いままで農業分野では作物の生育状況を数値化するためにマルチスペクトル画像が用いられてきた。私たちはこの技術を林業へ応用し、樹種ごとの光の反射特性の違いを利用して樹種判別ができないかの検討を開始した。

11:35～ ⑦ 経費削減に向けた無地拵（枝条の存置）の検証  
～ 植栽後5年間の経過～

日高南部森林管理署 小倉 知樹、新野 寛二

〔 令和元年から始めた造林経費削減に向けた無地拵（枝条存置）箇所について、対象区を含めたプロット毎に追跡調査を実施した結果を発表する。 〕

11:50～ ⑧ 地上LiDAR導入による脱輪尺化と省力化の試み

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 及川 希

〔 木の太さを測るときに使用する輪尺を、地上LiDARに置き換えたらどうなるのか。森林の資源量調査において、地上LiDARが輪尺の代替となるか実証試験を行い、計測精度や省力化の可能性を検証しました。 〕

昼食休憩 12:05～13:00

ポスター発表（一般部門）コアタイム 13:00～14:00

【特別発表】

14:00～ ① 天然更新カンバ類の効果的保育手法の確立

北海道森林管理局森林技術・支援センター 谷村 亮

〔 天然更新により発生したカンバ類を健全な森林に誘導するとともに、木材資源として安定供給するため、更新初期に行う効果的・実用的な刈払い作業の技術開発に取り組んでいることから、試験経過について報告する。 〕

14:15～ ② これまで家具材に使われてこなかった樹種を家具材として利用するための取り組み

国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所北海道支所 天野 智将

〔 令和4年より、ホオノキ、ハンノキなどこれまで家具としてはあまり使われてこなかった樹種を家具に使ってもらえるよう、材質や塗装・接着などの加工について研究してきました。その成果をお示しします。 〕

14:35～ ③ 北海道育種場における林木遺伝子銀行110番の取り組み

国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所林木育種センター北海道育種場 岩井 大岳

〔 林木ジーンバンク事業の一環である「林木遺伝子銀行110番」では、林木遺伝資源として価値のある巨樹・名木等についてクローン苗木を増殖し、里帰りを行ってきましたのでその取り組みについて紹介します。 〕

14:55～ ④ 保持林業の効果と課題：実証実験10年間の成果から

北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場 明石 信廣

〔 森林総合研究所北海道支所、北海道大学農学部、北海道水産林務部道有林課とともに2013年から行ってきた大規模実証実験において明らかになった保持林業の効果や今後の課題等について解説する。 〕

令和6年度 北の国・森林づくり技術交流発表会（2日目）

令和7年2月19日（水） 場所：講堂（2階）	森林保全・ふれあい・地域連携部門	6課題	9:30～11:10
	高等学校部門	3課題	11:20～12:05
	特別講演		13:45～14:45

【森林保全・ふれあい・地域連携部門】

9:30～ ① 知床国有林における天然林択伐施業林分の推移等について

知床森林生態系保全センター 田中 良、北原 廉也

知床森林生態系保全センターでは、昭和61年に天然林択伐施業を実施した知床国有林を定期的にモニタリングしており、直近の結果について報告するとともに、これまでの結果から見えてきた事象について考察してみた。

9:45～ ② 「過酷な作業」を改善してみませんか  
～下刈り作業の機械化を民有林に普及する取組～

上川北部森林管理署 山内 龍輔、梅本 優輝

町有林での現地検討会とその後の意見交換会において、国有林等の先行事例や作業軽減の見える化等、様々な視点で機械下刈りによる軽労化を進めるための課題解消と民有林への普及に向けての取組みを報告する。

10:00～ ③ シマフクロウの棲む森づくり～保護管理～

十勝東部森林管理署 黒岩 竜大、水谷 天哉

かつて北海道に広く生息していたシマフクロウは、極めて少なくなっており、保護管理が必要な状況です。当署で実施した給餌池の設置など保護管理に関する取組を振り返るとともに、今後の展望について発表します。

休憩 10:15～10:25

10:25～ ④ 広報活動による相互利益の実現に向けて  
～職員有志による広報ワーキングチームの挑戦～

北海道森林管理局広報ワーキングチーム 網走南部森林管理署 渡邊 大地、保全課 阿部 達矢

北海道国有林とその森林づくりのプレゼンス向上に向け、職員から公募した「広報ワーキングチーム」による林業PR動画の製作、地域・企業・学校等とのタイアップ企画など「情報をデザインし発信する」取組の紹介。

10:40～ ⑤ 高足刈りによるエゾシカ被害緩和の検証

後志森林管理署 中澤 慧人、津田 孝則

エゾシカによるカラマツ苗の食害被害が多発しており、その対策として特段の準備が不要な対策はないかと考え、下刈を地際より約50cmの高さで行う『高足刈り』を採用し、エゾシカ被害緩和の検証を行いました。

10:55～ ⑥ 大学生、帯広と東京の高校生の柳の有効活用の共同研究  
- 柳を通じてのふれあい木育交流 -

明治大学商学部 水野勝之ゼミナール 三浦 佳大、横内 由希子  
杉並学院高等学校 本多 真理 帯広農業高等学校 久田 なつみ

〔 明治大学生の「人と人との縁結び」高大連携企画により帯広農業高校森林科学科と杉並学院高校の生徒らが、有効活用の少ない柳の実際の伐採、それを利用した製品の試作、および他の柳の有効活用の研究を行った。 〕

休憩 11:10～11:20

【高等学校部門】

11:20～ ① 岩農版持続可能な森林経営を目指して  
～トドマツ林伐採後の森づくりを考える～

北海道岩見沢農業高等学校 市村 陽輝、中松 誠仁、樋口 冬輝弥

〔 本校演習林の人工林の大半が11齢級以上のトドマツであり、更新時期を迎えている。林床の稚樹調査や10年前に巻き枯らし間伐を行った林分の現状などから、トドマツ林伐採後の森づくりのあり方を検討した。 〕

11:35～ ② 木づかいできていますか？  
作って広める木の魅力発信プロジェクト～2024～

北海道旭川農業高等学校 青木 陽、青柳 漣、菊川 冬惺  
土谷 紀裕、山本 楓華、吉川 直文

〔 私達は実習や旭川の木材産業から発生する未利用部材を材料に、身近に利用できる木製製品の開発と木の魅力を伝えることを目的に木工体験活動を行い、「普段から気軽にできる木使い」の普及を目指して活動しています。 〕

11:50～ ③ スマート林業技術を学び、カラマツ人工林の林齢構成の平準化に挑戦

北海道帯広農業高等学校 村山 奨、久田 なつみ、川上 雄誠  
相馬 世実、安斎 美星

〔 本校学校林ではカラマツ人工林の林齢構成の平準化が課題です。スマート林業を学びながら課題解決することを目指し、林野庁のスマート林業教育推進事業に応募しました。その実践経過について報告します。 〕

昼食休憩 12:05～13:00

ポスター発表（高等学校部門）コアタイム 13:00～13:45

特別講演 13:45～14:45

特別講演

令和7年2月19日(水) 13:45~14:45

## 北海道国有林における 今後の択伐天然更新施業について

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所  
石橋 聡

### 【略歴略歴】

鳥取大学 農学部林学科(1978年~)  
鳥取大学 大学院農学研究科林学専攻(1982年~)  
林野庁 林政部管理課採用(1984年~)  
北海道営林局(直轄)計画課、余市営林署(1985年~)  
林野庁 指導部研究普及課(1988年~)  
森林総合研究所 北海道支所(1991年~)  
北海道大学 農学博士(1999年)  
森林総合研究所 北海道支所 チーム長(2001年~)  
森林総合研究所 北海道支所 グループ長(2006年~)  
森林総合研究所 企画部 室長(2011年~)  
森林総合研究所 北海道支所 チーム長(2013年~)  
森林総合研究所 北海道支所 地域研究監(2017年~)  
森林総合研究所 北海道支所 研究専門員(2020年~)



### 【講演概要】

これまで北海道国有林において行われてきた天然林択伐施業は保続という観点でみると決してうまく行ったとはいえない。その原因はいくつかあると考えられるが、それらを踏まえた択伐施業法の改善策を検討した。そのポイントは、

- ①北海道の針広混交林の樹群を単位とした更新動態に則る。
- ②低コストな天然更新補助作業により多様な樹種の確実な更新を図る。
- ③大型林業機械の使用による損壊木、損傷木を発生させない。

の3点であり、加えて

- ①施業担当者へのわかりやすさ。
- ②作業実行者の技能レベルに左右されない。

を考慮することである。

その施業法は樹群択伐天然更新施業法であり、具体的には、伐採は伐採面積を0.04ha程度を上限とする小群状とし、伐採後は伐採面の地がきと根返しを行って地表のササ除去と土壤攪乱により多様な樹種の天然更新を確保する。この施業方法により、まずは既往伐採地で質的量的に林分内容が低下した育成天然林の修復に着手し、持続可能性を高めるべきである。

### 【主要な論文・MISC・講演】

- ・北海道恵庭国有林におけるトドマツ人工林伐採跡の地がき施業から7年後のカンパ類の更新状況(森林総合研究所研究報告 2024年6月)
- ・北海道の針広混交林における択伐後の更新補助作業の効果(森林総合研究所研究報告 2022年6月)
- ・北海道における今後の森林施業法を考える(山林 2021年8月)
- ・松川実験林が教えてくれること - 天然林択伐施業試験70年の成果 - (森林技術 2021年8月)
- ・北海道における地がき更新補助作業と今後の課題(森林立地 2018年12月)
- ・十勝岳の安政噴火による泥流上に発達した林分の長期動態(森林総合研究所研究報告 2019年3月)
- ・北方森林の天然更新力を活かす地がき(森林技術 2018年11月)
- ・東大雪天然林における風倒後60年間の動態(森林総合研究所研究報告 2018年3月)
- ・北海道中部の北方針広混交林における択伐施業による林分構造と成長の57年間の変化(森林計画学会誌 2015年3月)
- ・北方針広混交林の林分構造と成長の長期推移(日本森林学会誌 2011年4月)

## 令和6年度 北の国・森林づくり技術交流発表会(ポスター発表)

コアタイム

場所:ロビー(1階)

一般部門(P01~20):令和7年2月18日(火)13:00~14:00  
高等学校部門(P21~28):令和7年2月19日(水)13:00~13:45

### P01 スtockヤードを活用した民・国協調出荷の横展開

石狩森林管理署 温井 和樹、久慈 正志

積丹地域森林整備推進協定のStockヤードで令和3年度に民・国で実施した協調出荷では札幌圏だけでなく他圏域からも応札があり、民有林の搬出間伐が可能となった。この実績を踏まえ赤井川村と共同出荷を進める。

### P02 防風保安林の下層植生等から考察する整備手法

空知森林管理署 山田 晴康

地域要望により再整備が進められている防風林だが、現状と植生調査の結果から、過去に研究発表で課題として挙げられた下層植生からの植栽木の選択の可否等について検討し、今後の防風林整備の指標や手法を考察した。

### P03 低コスト再造林技術への取組 ~緩効性肥料と表土戻し地拵による「新しい林業」への可能性~

空知森林管理署北空知支署 中嶋 佑輔、澤田 圭祐

伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」への展開を念頭に、クリーンラーチのコンテナ苗植栽と緩効性肥料の組み合わせによる「ゼロ保育」の可能性について検証した。

### P04 コタンコロカムイの森づくりに向け 「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画」の取組について

日高北部森林管理署 大久保 歩武、田口 和香菜

沙流川流域のアイヌの人々の伝統的な暮らしを育んできた北海道古来の森の再生や、森の恵みによって営まれてきた文化の伝承のため、地域との協働と連携により展開している多種多様な取組について紹介する。

### P05 留萌流域における造林の低コスト化と省力化に向けた取組について

留萌北部森林管理署 山端 孝、村上 純平

国有林で推進している、「新しい林業」仕様の造林地を当署管内で初めて設定した。また、当該地を題材に町村や北海道留萌振興局森林室を参集した勉強会を開催したので、その取組結果や今後の展望等について紹介する。

### P06 留萌南部森林管理署における「森林環境教育」の取組について

留萌南部森林管理署 堂坂 文彦、村上 大和

当署においては「遊々の森」「ふれあいの森」など協定締結した協定者との間で森林教室やカミネッコンを使用したどんぐり作戦等を実施しているが、これまでの取り組みと今後の「森林環境教育」の課題について報告する。

### P07 「障害」となる石礫を何とかしたい~遠隔操作下刈り機械の走行路を確保する取組~

上川北部森林管理署 野々村 真和

大型機械地拵では地表面を均し機械下刈り作業に支障がないよう努めているが、時間の経過とともに石礫が現れ下刈り機械の走行が困難となるケースがある。その石礫を植栽列に移動させ、走行路を確保する取組を紹介。

### P08 宗谷地域における先端技術(OWL)の普及に向けた見学会の実施について

宗谷森林管理署 秋葉 貴

宗谷地域において「新しい林業」の推進に向け、森林調査などの省力化に向けた取り組みの一環として、OWL(3次元計測システム)の現地見学会を開催したので、その実施内容について発表する。

P09 森林環境教育・職場体験学習及びインターンシップの活動の報告

上川中部森林管理署 本田 秀樹、吉田 泰輔

〔 令和6年7月神楽小児童に対し森林環境教育で外国樹種見本林を散策し森林のもつ役割等を説明したことや10月には中高生を対象に職場体験学習等を行い国有林野事業への興味・関心の啓発を行うなどの取組を紹介する。 〕

P10 占冠中央小学校との森林教室から見えたこと

上川南部森林管理署 池田 圭祐、佐藤 拓人、中野 夏未

〔 当署では占冠中央小学校との森林教室を毎年実施している。これまで児童に行ったアンケートから感想や知りたいことの傾向を分析し、児童たちに何を伝えるべきか、どのような内容で行っていくかについて考察した。 〕

P11 植栽2年目におけるトドマツ育苗期間短縮苗木の生長状況について

網走西部森林管理署 松崎 陽平、長谷川 斗真

〔 トドマツは育苗期間に4年程度要するため、苗木の需要変化に対応しにくい樹種である。このため、当署では緩効性肥料を用い育苗期間を2年に短縮したコンテナ苗を令和5年に植栽し、その後の生長状況を調査した。 〕

P12 網走西部森林管理署管内に所在する瀬戸瀬山風穴の生物相の調査と考察

網走西部森林管理署 穂刈 裕一

〔 網走西部森林管理署管内にある、夏でも冷涼な風穴箇所において、自動撮影カメラを用いて生物相を調査した。イソツツジなどの特異な植生に加え、エゾナキウサギを含む複数の準絶滅危惧種の風穴の利用が確認された。 〕

P13 海岸防風保安林の保全に向けた取り組み～深淺測量成果からみる紋別海岸～

網走西部森林管理署西紋別支署 遠藤 颯騎、浅野 誠一郎

〔 当支署では、海岸浸食の状況を確認するために「深淺測量」を実施しています。これまでの測量成果を比較し、陸からは見ることのできない海の底の変化について報告します。 〕

P14 置戸町国有林で発生した林野火災の対応と課題について

網走中部森林管理署 山岸 寛明、奥川 勸介

〔 令和6年7月3日に置戸町常元国有林で約半世紀ぶりに発生した林野火災について、役場・消防・自衛隊・民間企業との連携した消火活動の紹介と、今回明確になった課題等について発表します。 〕

P15 QGIS×Python (with AI) プラグイン開発のすゝめ

根釧西部森林管理署 三田 武

〔 Pythonと生成AIを活用してQGISプラグインを開発し、森林情報管理（図面作成、データ連携）の課題を解決しました。 〕

P16 忌避剤散布によるエゾシカ被害対策の効果検討（第2報）

根釧東部森林管理署 川上 貴、氏 成雅、佐東 健太、西川 希一

〔 カラマツ植栽木のエゾシカによる食害や引抜が発生しており、今後、再造林経費の増大が懸念されることから、被害低減対策として忌避剤の散布方法について検証を行った。 〕

P17 5年間のQGIS普及活動を続けたら国有林事業が円滑化した話

十勝東部森林管理署 妻藤 莊史、黒岩 竜大

〔 令和2年度以降、職員や管内林業事業体を対象としたQGISの利用普及を続け、事業のデータや森林計画等の地図情報をICT化した。これまでの講習会等の取組や円滑な事業実行成果、GISデータの活用に向けた展開を紹介する。 〕

P18 地域に根ざした多様な森林づくりを目指して  
～森林整備方針の作成と地域の合意づくり、森林施業への取組み～

十勝西部森林管理署 小野 代補

〔 保育園の遠足をはじめ多くの地域の方に利用を頂いている「国見山自然観察教育林」において、森林施業の方法について、令和元年から地域との協議を行い、令和5年度に要望等を取り入れた施業を行ったので発表します。 〕

P19 盛土地拵による造林コスト縮減へ向けた取組（第3報：最終）

檜山森林管理署 橋本 翔吾、津谷 進

〔 本署では、平成29年度に下刈作業の省略化を目的として盛土地拵を実施した。  
当初の目的どおり下刈未実施で植栽木が周囲の植生を脱したため、当試験地の生育・状況結果について最終報告する。 〕

P20 視覚で伝わるワンポイント安全指導～ 身近な危険を誰もが理解できる取組を目指して～

渡島森林管理署 吉秋慎太郎

〔 林業における重大な労働災害はヒヤリハットから発生することが多いことから、よくあるヒヤリハットを画像化し、林業従事者が注意点をイメージしやすく記憶に残りやすい安全指導を行った結果を報告します。 〕

P21 北海道岩見沢農業高等学校における地域と連携した木育の推進について

北海道岩見沢農業高等学校

〔 本校では、岩見沢市内保育園と連携した木育事業を継続して展開しています。今年度は、私たちの活動が地域に波及し、地元企業との連携した活動へ発展することができました。私たちの実践内容について発表します。 〕

P22 誰もが自然とふれあえる空間をつくろう

北海道岩見沢農業高等学校

〔 本校の見本林は、利用したいと思える環境になっていません。多くの人に利用してもらうための歩道整備と、わかりにくい演習林の林道をわかりやすくしたいと考え、看板の設置方法を工夫しました。 〕

P23 木材の有効活用～ 商品化に向けて～

北海道岩見沢農業高等学校

〔 本校演習林では、倒木や間伐実習で毎年多くの丸太が排出され、その丸太の有効活用のため木工品を商品化に向けて活動しています。 〕

P24 木づかいできていますか？  
作って広める木の魅力発信プロジェクト～2024～未利用木材を活用した『木使い』の普及を目指して

北海道旭川農業高等学校 青木 陽、青柳 漣、菊川 冬惺  
土谷 紀裕、山本 楓華、吉川 直文

〔 私達は実習や旭川の木材産業から発生する未利用部材を材料に、身近に利用できる木製製品の開発と木の魅力を伝えることを目的に木工体験活動を行い、「普段から気軽にできる木使い」の普及を目指して活動しています。 〕

P25 旭農版コンテナ苗の生産～培地と容器の違いによる成長の比較～

北海道旭川農業高等学校 角張 心音ほか

〔 カラマツのコンテナ苗の生産において、コンテナ容器はリフタイプとサイドスリットタイプを、培地にはココナッツハスク主体とビートモス主体のものを使用して、樹高・直径の成長を比較実験しました。 〕

P26 こっぱっぱスロープトイの開発と公開～家具端材を活用した知育玩具開発～

北海道旭川農業高等学校 城間 得幸ほか

〔 旭川市の名産品の家具を製作する過程で出てくる木材片（こっぱ）で自由にコースを作れるようにした、木球を転がすスロープトイの開発を行いました。また、幼稚園や子どもが参加するイベントで体験してもらいました。 〕

P27 上川林業アップテート事業～ 上川町の森と家族をつなぐオリジナル孫の手の製作2024～

北海道旭川農業高等学校 内海 龍晟ほか

〔 本校が実践している上川林業アップテート事業を通して、上川町産のシラカンバを使用したオリジナル孫の手を製作しました。開催したワークショップでは多くの方々に孫の手づくりを体感していただくことができました。 〕

P28 スマート林業技術を学び、カラマツ人工林の林齢構成の平準化に挑戦

北海道帯広農業高等学校 村山 奨、久田 なつみ、川上 雄誠  
相馬 世実、安斎 美星

本校学校林ではカラマツ人工林の林齢構成の平準化が課題です。スマート林業を学びながら課題解決することを目指し、林野庁のスマート林業教育推進事業に応募しました。その実践経過について報告します。

### 施設利用におけるお願い

- ・ 体調のすぐれない方はご入場をお控えください。
- ・ 携帯電話等は、電源を切るかマナーモードに設定してください。
- ・ 大学敷地内は、施設も含めてすべて禁煙となっております。
- ・ 施設運営において施設内での飲食については、飲み物は可能ですが、食事はできません。
- ・ ゴミは各自で持ち帰ってください。

### アンケートのお願い

- ・ 記入したアンケートは忘れずにアンケート回収箱へ投函ください。
- ・ Webアンケートについては、下記の北海道森林管理局ホームページをご覧ください。  
[URL: https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/](https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/)
- ・ メールでのアンケート提出は、以下メールアドレスに送付してください。  
[h\\_r6\\_happyo@maff.go.jp](mailto:h_r6_happyo@maff.go.jp) (●を@に置き換えてください)



[北の国・森林づくり技術交流発表会運営事務局]  
北海道森林管理局 森林整備部 技術普及課  
北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番  
011-622-5245

